

## 人権学習パンフレット『考えよう～高齢者の人権～』の活用にあたって

このパンフレットは、保護者や子どもに関わる地域の方々を対象に、「高齢者の人権」について参加体験型（ワークショップ）で学ぶ教材として作成したものです。

日常生活で起こりうる具体的な事例をもとに、高齢者に対する思い込みや偏見等について考えたり、「聴く」活動をとおしてコミュニケーションの基本を身につけたりするなどの内容としています。

以下の展開例は、グループで学習する際の進行役（ファシリテーター）を想定して作成しています。この例を参考に、学習を行う状況に合わせて工夫し、活用してください。

### ※留意点

- ・学習を始める前に、アイスブレイキングを行って参加しやすい雰囲気づくりをしたり、グループづくりをしておきましょう。
- ・アイスブレイキングについては、和歌山県教育委員会のWebページに掲載している「学習の前にアイスブレイキング」を参考にしてください。（保護者学級等において、参加者がお互いによく知っている場合は、省略しても構いません。）
- ・ワークに入る前に、必ず「ルール」を確認しておきましょう。（具体的なルールについては、人権学習パンフレット第4作の「すべての人がつながるために」の使い方説明を参照してください。）
- ・この展開例は、90分での学習を想定していますが、学習時間は状況に合わせて適宜設定し行ってください。

○ 1 頁「自分が持つ高齢者イメージ」について

時間	活 動	留 意 点
5 分	○「自分が持つ高齢者イメージ」について考える。  ○考えたことを発表する。	○学習者に「身体・外観・行動・精神」の4つの視点でどのような高齢者のイメージを持っているか、問いましょう。  ○何人かに発表してもらっても良いでしょう。

○ 2 頁「高齢社会の状況」の展開例

時間	活 動	留 意 点
5 分	○グラフを見て、我が国・県の高齢化率について知る。	○少し時間を取り、グラフを見ながら説明を聞いてもらいましょう。

○ 3 頁「考えよう ～事例その①～」の展開例

時間	活 動	留 意 点
1 5 分	○この場面を見て、考えたことをワークシートに書く。  ○考えたことについて話し合う。	○5分程度でシートに書き込んでもらうよう伝えましょう。 ○「あなたがお父さん、お母さんならどうしますか？」など、それぞれの立場に立って考えるように伝えましょう。  ○隣の人と話し合ったり、グループで話し合ったりしても良いでしょう。  ○高齢者の疎外感や、高齢者への固定観念などについて意見を求めても良いでしょう。

○4, 5, 6頁「やってみよう ～『聴く』～」の展開例

時間	活 動	留 意 点
20分	<p>○二人ずつ組になり、話し役と聞き役の役割分担をして、ワークⅠを行う。</p> <p>○感想を出し合い、振り返る。</p> <p>○ワークⅡを行う。</p> <p>○感想を出し合い、振り返る。</p> <p>○6頁の文章を読む。</p>	<p>○話す内容をしっかりと考えること、「聞かない」というメッセージをしっかりと送ること、また、話す時間は1分間とすることを伝えましょう。</p> <p>○一生懸命話をしますが、聞くことを強要しないように伝えましょう。</p> <p>○二人で感想を出し合うように伝えましょう。</p> <p>○話す内容をしっかりと考えること、「しっかり聴いている」ということを全身で表すこと、また、話す時間は1分間とすることを伝えましょう。</p> <p>○「うん」「はい」等、声は出さないように伝えましょう。</p> <p>（Ⅰ、Ⅱは同じ時間話すようにする）</p> <p>○二人でⅠ、Ⅱを行って見た感想を出し合うように伝えましょう。</p> <p>○グループになり、話し合ってもよいでしょう。また、何人かに発表してもらってもよいでしょう。</p> <p>○ファシリテーターが読むか、学習者に分担して読んでもらってもよいでしょう。</p> <p>○～事例その①～を振り返ってもよいでしょう。</p> <p>○「能動的傾聴」や「共感的傾聴」は、特に高齢者とのコミュニケーションにおいて非常に有効な聴き方であることを伝えましょう。</p>

○ 7 頁「考えよう ～事例その②～」の展開例

時間	活 動	留 意 点
3 5 分	<p>○この場面を見て、思ったことをワークシートに書く。</p> <p>○感じたり考えたりしたことについて話し合う。</p> <p>○話し合ったことを発表する。</p>	<p>○5分程度でシートに書き込んでもらうよう伝えましょう。</p> <p>○事例にある言葉を言った人や、それを聞いた高齢者の気持ちを考えるように促しましょう。</p> <p>○二人ずつ組になるか、グループになり感想を出し合うように伝えましょう。</p> <p>○ほかにもこのような言葉があるか、これらの言葉に根拠はあるかなど、考えるポイントを伝えても良いでしょう。</p> <p>○高齢という理由による行動制限について考えるとともに、高齢者をいたわり心配することと高齢者の人権を大切にすることとの関わりについても考えるように促しましょう。</p> <p>○あとで発表してもらうことを予め伝えておきましょう。</p> <p>○何人かに発表してもらい、主な意見を板書しておくとも良いでしょう。</p> <p>○身近な高齢者の実際の暮らしぶりについて話し合うように促しても良いでしょう。</p> <p>○より具体的な事例を出してもらいながら(家族のこと、親戚のこと、近所のことなど)、話をふくらませても良いでしょう。</p> <p>○8頁の「この学習を振り返って」をここで併せて行っても良いでしょう。</p> <p>○話し合ったことを発表する中で、ファシリテーターがまとめていっても良いでしょう。</p>

○ 8 頁「この学習を振り返って ～今までとこれからと～」の展開例

時間	活 動	留 意 点
10分	<p>○一事例①②から一を読む。</p> <p>○この学習を踏まえ、今までの自分と高齢者との関わり方について振り返る。また、これからのことについても考え、ワークシートに書く。</p> <p>○感じたり考えたりしたことについて話し合う。</p>	<p>○ファシリテーターが読むか、学習者に分担して読んでもらいましょう。</p> <p>○自分の家族や近所にいる高齢者をイメージし、その人達との具体的な接し方について考えてみたりするように伝えても良いでしょう。</p> <p>○グループで話し合った意見を後で発表してもらうことを予め伝えておきましょう。</p> <p>○出された意見をもとに、ファシリテーターが高齢者の人権を尊重した関わり方についてまとめるようにしましょう。</p> <p>○8頁は、7頁と併せて行っても良いでしょう。</p>